

図書館常設展示 第1回

- 水産講習所初代所長 松原新之助 -



場所:東京海洋大学附属図書館(品川キャンパス)

期間:2007年9月3日(月)~12月22日(土)

主催:東京海洋大学附属図書館

松原新之助展示資料リスト(年代順)

- 1 講筵筆記薬用動物篇 2 巻 / 松原新之助講義 ; 安本徳寛筆記 ; 巻之上, 巻之下. -- 英蘭堂島邨利助(発売), 1878.
明治 14 (1881) 年からの東京大学医学部助教授の授業の講筵筆記である。
本書と同時期に講筵筆記薬用植物篇も出版されている。
- 2 東京大学年報 / 東京大学史史料研究会編. -- 第 2 巻 -- 復刻版.
東京大学出版会, 1993. -- (史料叢書東京大学史).
東京大学年報による松原新之助の講義報告書。上記 2 冊を閲覧することにより、
東京大学医学部時代の松原新之助の授業内容を知ることができる。
- 3 獨乙農務觀察記. -- 上. -- 農務局, 1881.
本書は松原新之助が明治 12 (1879) 年 - 明治 14 (1881) 年のドイツ出張の復
命書である。水産部、農學部、農務省處務部の 3 分冊で刊行された。
ドイツ出張の目的の一つはベルリンで開かれた万国漁業博覧会の事務を遂行
することにあつた。また、旧師の F . M . ヒルゲンドルフ博士と再会して、ド
イツの著名学者の紹介を受け、大いに益するところがあつた。
法律調査のため、ベルリン滞在中の村田保 (第 2 代水産伝習所長) と会い、日
本の水産業発展のため努力することを誓い合ったのは有名な話である。
本書には水産保護、水産法規、養殖、水産協会、水産学術調査等が記載され、
大日本水産会の結成に影響を与えた。
- 4 大日本水産會報告 / 大日本水産會事務所. -- 12 号, 1883. pp. 15-32
「我水産博覧會ニ先テ伯林漁業博覧會の實況ヲ述フ」
明治 13 (1880) 年にドイツで開かれたベルリン万国水産博覧会の様子を記述し
たもの。各国の展示品について展示室ごとに詳細に説明している。
- 5 水産調査豫察報告 / 農商務省水産局. -- 1 - 4 巻. -- 農商務省水産局,
1889-1893.
農商務省が明治 21 年から 3 年かけて行った全国的な水産の予備調査の報告書。
松原新之助は農商務省技師として第 1 巻 1~3 冊および第 2 巻第 3 巻を担当。
珍しいところでは沖縄のジュゴン (需良 ザンノイヨ) を報告している。
- 6 水産擴張意見 / 松原新之助編輯. -- 大日本水産會, 1891.
- 7 北越河漁調査報告 / 松原新之助編. -- 松原新之助, 1892.
新潟県内の河川の魚種減耗を懸念した、新潟県漁業連合会の依頼を受けて、松
原新之助が明治 24 年 10 月 28 日から 11 月 25 日までに新潟県内の河川を調査
した記録。魚種の減耗に対する策として、密漁の禁止、育てやすい欧米の良種
を移入し、人工孵化を進めることなどをあげている。また、阿賀川 (現在の阿
賀野川) において、鉱山の出す廃水が魚類に悪影響を与えていることも既に指

摘している。

8 水産動物学：全 / 松原新之助講述. 1800 年代 -- (水産傳習所講義筆記).

9 水産養殖学：全 / 松原新之助講述. 1800 年代 -- (水産傳習所講義筆記).

上記 2 点は松原新之助が水産伝習所で行った授業の記録。

第 9 回製造科卒業 (明治 29 年) 菖蒲治太郎が授業の内容を筆記したもの。

10 露國聖彼得堡府萬國漁業博覽會報告 / [松原新之助著].

農商務省水産局, 1903.

明治 34 (1901) 年にロシアのセントペテルスブルクで万国漁業博覧会が開かれ、委員として出張、その時開かれた万国漁業会議にも出席した。

本書は万国漁業博覧会の各国の出品の詳細な報告であり、併せて各国の水産業の状況を図版とともに報告している。

11 金魚と錦鯉：鑑賞と飼い方 / 松井 佳一. 4 版 金園社, (1970)

12 フィッシュマガジン 07 年 9 月号別冊 金魚ことはじめ 緑書房, 2007

松原新之助が命名した金魚「秋錦」と「朱分錦」「金蘭子」鯉の「秋翠」を見ることができる。

13 書「水産者終生努」

この書は水産品評会に行ったとき、宿泊した宿の主人に頼まれて書く折に、同行していた妹尾秀實にも頼まれて書いたもの。

書を書く数年前、当時水産講習所長であった松原新之助の前で学生の妹尾秀實が「水産をレーベンス・アルバイト (生涯の仕事) として貫こうと思う。」と言った。それを覚えていてくれたからこの内容を書いてくれたのだと感激した。と、妹尾秀實は『動物学雑誌』28 卷 330 号に書いている。

14 高の島実験場日誌：自明治四十二年至大正九年. -- 高の島実験場, 1909.

本資料はかつて千葉県館山市に存在した水産講習所高の島実験場の日誌である。明治 42 (1909) 年に開設された水産講習所高の島実験場は、関東大震災のため、陸続きになり、海軍に接收され、小湊実験場に移り、更に現在の館山ステーションとなった。日本で最初の臨海実験所である東京大学の三崎臨海実験所が開設されたのは明治 14 (1881) 年である。明治 42 (1909) 年に松原所長の念願の一つであった高の島実験場が開設された。開設から大正 9 (1920) 年までの教官と学生による寄せ書きの日誌が奇跡的に残った。岡村博士の自筆等も散見される。本資料の最初は開場式の状況が詳しく記述されている。道家水産局長、松原所長、千葉県知事代理、千葉県水産試験場長、安房郡長代理、千葉県会議員等、臨席し盛会であったことがわかる。

30th April (明治四十二年)

當実験所開所式ヲ挙行セラル、朝来ノ降雨ニ係ラズ来賓壹百八十名ヲ算ス。東京ヨリ八道家

水産局長 松原所長殊ニ臨席セラル。地方ノ主ナル来客八萬里小路伯、千葉縣知事代理、千葉縣水産試験場長、千葉縣水産講習所長、安房郡長代理、縣會議員等ナリ。

此日快晴ナラバ模擬店ニ於テ大園遊會ヲ開会スベキ豫定ナリシモ不幸ニシテ天候不良ナリシヲ以テ寄宿舎食堂間ニ於テ同 だんご、おす志、田楽等ヲ饗セラル。殊ニ斡旋ノ勞ヲラレタル八館山町長木村茂 豊津村漁業組合長鈴木近蔵ノ二君トナス。茲ニ記シテ両君ノ勞ヲ謝ス。(日誌最初のページより抜粋)

15 高の島実験場回想録 -- 楽水会, 1982

「高の島実験場日誌」発見を機に楽水会々会員から寄せられた高の島をめぐる回想をまとめたもの。

16 日本重要水産動植物圖 / 大日本水産會編. -- 図版, 解説. -- 高山房, 1910.

本書は農商務省が明治 22 年にフランスで開催された博覧会に国内水産動植物 159 種を選んで石版で印刷し出品したものを元に種類を加え出版したもの。解説は松原新之助が分担している。

17 日本鮭鱒養殖誌 / 松原新之助著. -- 農商務省水産講習所, 1912.

明治 44 年ローマで行われた万国博覧会の際、松原新之助が発表したドイツ語の論文を日本語に訳したもの。同じものを国会図書館の近代デジタルライブラリーでも見ることができる。鮭鱒養殖の沿革、鮭鱒の経済的価値、鮭鱒養殖の現状について述べており、これからますます発展させて行くべき事業だと結論づけている。

松原新之助 (号、瑜州) 略歴

- 1853 (嘉永 6) 島根県松江市で松江藩士松原友益の子として出生
- 1871 (明治 4) 東京医学校 (後の東京大学医学部) に入学
- 1873 (明治 6) F. M. ヒルゲンドルフ、東京医学校で博物学を講義
その通訳を努めながら動物学を学んだ
- 1879 (明治 12) 内務省御用係 (ベルリン万国水産博覧会事務)、11 月ドイツ出張
- 1881 (明治 14) ドイツより帰国、農務局事務取扱 東京大学助教授、駒場農学校教授
- 1882 (明治 15) 大日本水産会創立に尽力、同会監事
- 1883 (明治 16) 第 1 回水産博覧会審査部長
- 1889 (明治 22) 水産伝習所創立、同所教師
- 1897 (明治 30) 水産講習所技師、同伝習部長
- 1901 (明治 34) 露国万国漁業博覧会日本委員万国漁業会議参加のため露国へ出張
- 1903 (明治 36) 水産講習所長となる
- 1911 (明治 44) 農商務技師 (勅任官) となり、退職
- 1916 (大正 5) 年 2 月 14 日 逝去 享年 64